

2. 研修報告

九州大学農学部附属農場を見学して

川口昭二・松元里志・谷村音樹

研修地及び日程

研修地 九州大学農学部附属農場

原町農場 福岡県粕屋郡粕屋町大字原町 111

篠栗農場 福岡県粕屋郡篠栗町大字津波黒 348

日 程 1996年3月18日

研修概要

九州大学農学部附属農場は、原町農場、篠栗農場及び高原農業実験実習場の3農場で構成されており、今回は原町農場と篠栗農場を見学した。

原町農場は総面積2,350 a 技官9名で、水田、畑、桑園及び牧場が、篠栗農場は総面積1,932 a 技官2名で、果樹園、採草地などがある。主な職種内容は、作物部門、園芸部門、畜産部門の3部門に別れている。

作物部門は、作物研究室と機械研究室に別れており、作物研究室は水稻の栽培体系、低農薬栽培技術の研究、食用作物の品種・系統（約30種1,000品種・系統）の保存と評価、水田転換畑における作物の安定多収栽培法の研究などを行っている。機械研究室は農業におけるバーチャルリアリティの応用、トラクタ及びコンバインのエンジン特性と多目的制御、開発途上国への適用を考えた「耕耘の基礎」と体系化などの研究を行っていた。

園芸部門は、果樹研究室と野菜・花卉研究室に別れており、果樹研究室は果樹類の遺伝資源収集・評価と系統発生学的研究、果樹の遺伝・育種に関する諸研究などを行っていた。野菜・花卉研究室は野菜の連作障害に関する研究、シクラメンの栄養繁殖に関する研究などを行っていた。

畜産部門は畜産研究室になっており、マメ科牧草フェジービーンの導入に関する研究、乳質に及ぼす飼料作物の影響についての基礎的研究、地鶏及び山羊など在家畜の性能に関する基礎的研究などを行っていた。

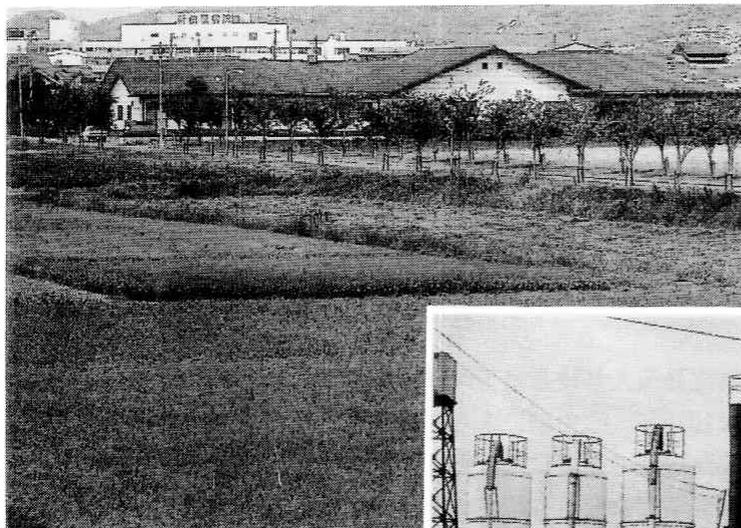
農場実習は、学科ごとにカリキュラムをくみ、機能の異なる3農場で教官・技官・事務官が一体となって行っており、研究は基礎から先端まで幅広いテーマで行われ、大学院生・外国人学生も成果を挙げているということであった。また、国際協力・地域農業への取り組み、農業者や市民を対象にした公開講座の開催などにも力を注いでいるということであった。

感 想

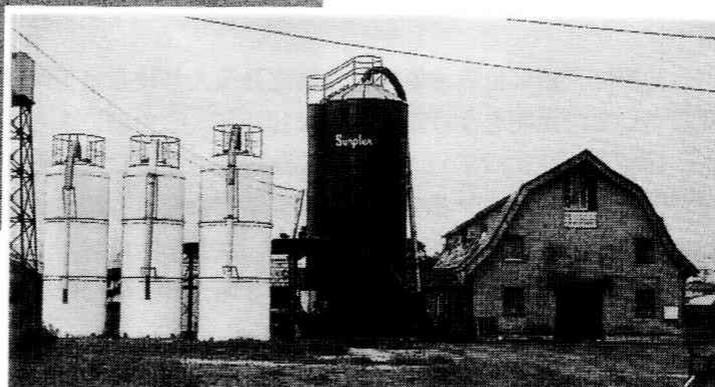
九州大学農学部附属農場の各種の果樹および作物の品種収集の豊富さに驚いた。九州大学は作物の生産を行うほか、遺伝資源の保護や収集などにも力をいれていることが理解できた。農場は経常の予算だけでなく遺伝資源保存経費ももらっているそうである。

九大の農場を見学して、遺伝資源の保護や収集・研究などいろいろなことをわれわれの農場も見習わなければいけないことがたくさんあるように思えた。

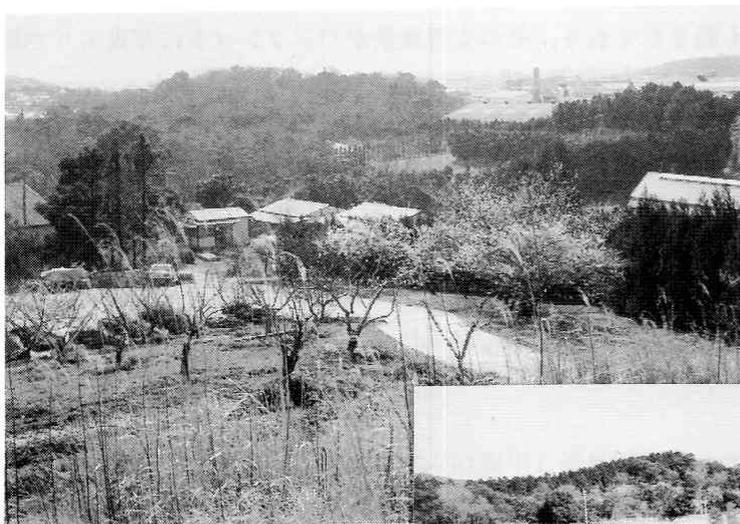
農場の見学の後、農場で九大の農場職員とわれわれの交流会を開いてくれ牛乳鍋をごちそうしてくれた。鹿大でも他の大学の農場職員が来訪の場合にはみんなで交流会を開いた方がいいのではないかと痛感した。



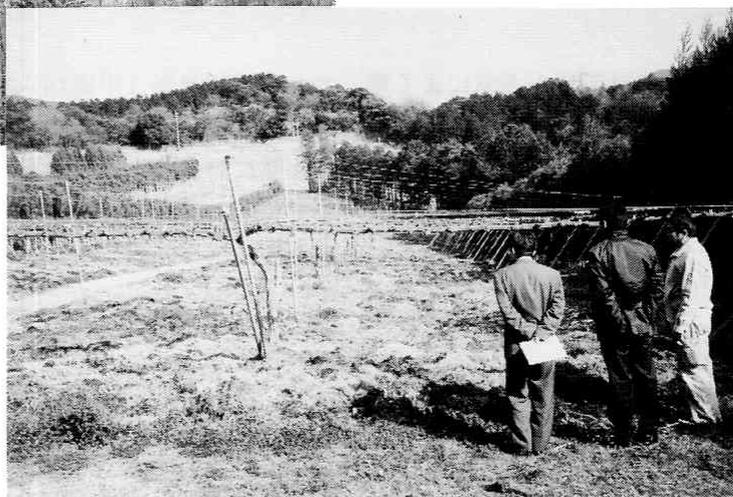
第1図 原町農場



第2図 原町農場畜舎棟



第3図 篠栗農場



第4図 篠栗農場ブドウ園